

実情や時代に合った防災へ



美園地区での防災訓練

全国的に、地震や大雨などの自然災害が多発しており、ホームセンターなどで防災グッズが売られているのによく見かけます。災害に対する意識が高まっているといわれていますが、いざという時のことを家族や地域の人たちと考えたことはありませんか？
 防災に限りませんが、何事も実情や時代に合った対応や取り組みをしていかなければなりません。
 今月号は、地域の実情を考慮して見直しを行った避難所と、新たに作成した「市民防災ガイドブック」などを紹介します。

災害から自分の身や地域を守るためには、何よりも、市民の皆さん一人一人が、日ごろから防災意識の高揚に努め、いざという時に適切な行動を取ることが大切です。
 市は、避難判断のポイントとなる避難勧告等の判断・伝達マニュアルを公表し、日ごろからの備えと災害時の対応をまとめた、市民防災ガイドブック、迅速で適切な行動をイメージできる災害時タイムラインを作成しました。

避難勧告等の判断・伝達マニュアル

このマニュアルは、市民の皆さんが、自らの判断で避難行動を取る際に、判断の目安となるものです。迅速かつ円滑な避難行動を実現し、災害による人的被害の軽減を図るため、避難勧告等の発令の判断基準や警戒すべき区域を明確にすることを目的としています。

市ホームページのほか、市役所本庁、北村・栗沢両支所、幌向・朝日・美流渡・有明交流プラザの各サービスタウンで見ることが出来ます。また、町会・自治会にも配付しています。万が一に備えて、ぜひ一度ご覧ください。

市民防災ガイドブック

このガイドブックは、災害から人



命や地域を守るため、「日ごろからの備え」や「災害時の対応」などをまとめたものです。
 ガイドブックは、5月下旬に各家庭にお配りしますので、ぜひご活用ください。

岩見沢市版のタイムライン (事前防災行動計画)

大雨時の河川増水を想定し、「どのような状況の時」に「どう行動すれば良いのか」を簡略的な表形式で役割を表した「岩見沢市版タイムライン」を作成しました。

このタイムラインは、災害が発生した場合をイメージしやすく、「市民の皆さん」「地域」「市役所」それぞれの役割を示していますので、このタイムラインを参考に、ご自身または地域での防災活動計画を組み立ててみましょう。
 タイムラインは、市民防災ガイドブックまたは市ホームページでご確認ください。

避難所を見直しました

これまで小学校の通学区を避難対象範囲とし、主に市の施設を避難所として定めていました。
 今回の見直しでは、道立高校や民間施設も活用し、避難対象範囲も町会・自治会の単位に改めました。
 平成26年度から始まった避難行動要支援者制度の避難支援体制には町会・自治会などの地域コミュニティの協力が不可欠です。今回の見直しと併せることにより、分かりやすく

指定を終えた避難所

北村公民館
北村環境改善センター
JAいわみざわ大富支所総合研修センター
豊里地区自治会館
共栄地区自治会館
JAいわみざわ幌向支所
栗部会館
美流渡小学校

新たに指定した避難所

生涯学習センターいわなび
駒沢幼稚園
岩見沢東高等学校
岩峰地区農地流動化センター
毛陽コミュニティ交流センター
美流渡中学校
ホテルサンプラザ
北村温泉

連携がとれた避難につながります。詳しくは、折り込みの避難所一覧(平成28年3月23日改訂版)で、ご自分の避難所をいま一度確認していただくください。

ハザードマップも訂正を

すでに配付している洪水ハザードマップにも避難所が掲載されています。今回の避難所の見直しに伴い、お近くの避難所が変更になっている場合がありますので、確認しておきましょう。

岩見沢市版のタイムライン

岩見沢市版災害時タイムライン

河川名	利根川	幌向川	豊里川	旧美幌川	石狩川	石狩川	夕張川	東利根川
観測所	大和橋	岩葉橋	西川向	大倉橋	岩見沢大橋	月形	清根橋	総合公園
はんば危険水位	12.07	12.99	14.20	12.00	15.60	13.60	19.28	
避難判断水位	11.59	12.75	13.30	11.40	15.30	13.20	18.97	
はんば注意水位	10.53	11.97	10.60	10.40	9.40	12.30	12.60	18.72
水防団待機水位	9.16	9.67	10.00	9.30	7.80	10.40	11.60	18.22

大雨の時、河川の増水を想定したタイムラインです。降雨の状況により、経過時間が異なりますので、気象警報や河川の水位によって、市役所・地域(町会・自治会等)・個人が行うことを示しています。

事象の状況	平常時	大雨の予報	大雨注意発表	大雨警報発表	河川水位上昇	避難判断水位	はんば危険水位 土砂災害警戒情報発表	避難の開始 河川水位上昇 はんば危険	避難の継続 河川水位上昇 はんば危険	避難の終了 (避難の継続) (避難の継続)	事象の終息
避難の準備	災害対策の開始(パナソニックや、災害時の心構え) 防災対策の実施 備蓄品の購入・配置 情報伝達方法の充実 防災訓練の実施	天候の変化注意	気象情報の確認、予測 (初動対応隊員の出動)	第1非常配備隊員参加 気象情報収集・分析(山内) 市民・関係機関へ情報伝達	関係機関との情報交換 情報の取りまとめ 今後の対応検討	災害対策本部設置 避難所開設準備(一階) 避難者受入 市民・関係機関へ情報伝達 (対象町会長への連絡)	市民・関係機関へ情報伝達 被害状況の把握	カガ人・不明者の集約 支援物資の調達・搬送 不明者の捜索、確認	支援物資の調達・搬送 不明者の捜索、確認	被害状況の確認 避難所の閉鎖	災害状況のまとめ・報告
避難の開始	連絡網の整備(コミュニティ) 地域内の役割担当者決定 備蓄品、資機材の準備 情報伝達方法の準備 防災訓練の実施	悪天候の認知 テレビ・ラジオ・インターネット等により入手	連絡方法の確認 連絡網の準備	連絡体制の準備 町会役員・班長等との今後の対応連絡	地区の状況確認、情報共有 (状況により行政への連絡)	地区内の情報伝達(連絡) 担当役員の集約 避難所の開設状況確認 (避難者への連絡、行動支援) 避難勧告・災害発生に備えた準備	避難準備情報発令	避難勧告発令	避難指示発令	避難所の閉鎖	復旧作業への支援
避難の継続	パナソニックの確認 避難所及び避難経路の確認 非常備出品・備蓄品の確保 情報伝達方法の準備 防災訓練への参加	悪天候の認知 テレビ・ラジオ・インターネット等により入手	実地予報の確認 (外出予定の検討・中止)	家屋の確認、危険箇所等の点検 非常備出品・備蓄品の確保 (帰宅又は滞在地に留まることへの判断)	家屋の動向確認、情報共有 (注のう等による防水準備、対策)	非常備出品の準備 避難所の位置確認 避難所との情報共有 (支援・要支援者含む)	避難の開始(安全確保) 要支援者の安全確認	避難完了 自らの安全確保 家屋の安全確認	避難生活のルール確認 家屋等の状況確認 帰宅(準備を含む)	家屋等の清掃・修繕	

災害はいつ起こるか分かりませんが、災害から身を守るためには日ごろからの備えがとても大切です。家族や地域で、市民防災ガイドブック、

避難勧告等の判断・伝達マニュアルなどを活用し、防災対策に役立てましょう。
 問合先 市防災対策室